

## 《研究課題名》

近視性黄斑円孔網膜剥離に対し内境界膜移動術と自己血注入術を併用した硝子体手術成績

## 《研究対象者》

2016年1月1日より2025年3月31日までの期間内に、滋賀医科大学医学部附属病院眼科において、黄斑円孔網膜剥離と診断され、硝子体切除術+内境界膜移動術+自己血注入術を行った方

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきませんが、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記（４）の問い合わせ先へご連絡ください。

### （１）研究の概要について

#### 《研究課題名》

近視性黄斑円孔網膜剥離に対し内境界膜移動術と自己血注入術を併用した硝子体手術成績

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2025年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 眼科学講座 柿木雅志

### （２）研究の意義、目的について

#### 《意義》

黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動術+自己血注入術の手術成績を検討することによって、本術式の有効性を評価でき、今後の治療法の一助となることが期待できます。

#### 《目的》

近視性黄斑円孔網膜剥離に対し内境界膜移動術+自己血注入術を併用した硝子体手術成績を検討します

### （３）研究の方法について

#### 《研究の内容》

黄斑円孔網膜剥離は、強度近視に伴う重篤な合併症の一つです。黄斑円孔を原因裂孔として、網膜剥離を生じ、広がっていきます。これまで、様々な手術が試みられてきていましたが、黄斑円孔の閉鎖率は特異性黄斑円孔に比べて低く、網膜の復位率も裂孔原性網膜剥離に比べて低くなっています。2015年には、網膜の一部である内境界膜を黄斑円孔内に詰め込み（内境界膜移動術）自己血で被覆する（自己血注入術）ことで良好な黄斑円孔閉鎖率と網膜復位率を得ることが報告されています。

本研究では、本術式を行った方の黄斑円孔閉鎖率と網膜復位率を検討して、有効性を検討します。

#### 【対象と期間】

本学の倫理審査委員会で承認された後、2016年1月1日～2025年3月31日までの期間内に、硝子体切除術+内境界膜移動術+自己血注入術を行った方。

#### 《利用する試料・情報の項目》

電子カルテよりデータを抽出して検討を行います。

【検討項目】年齢、性別、術前視力、眼圧、左右の別、眼手術の有無と手術内容、眼軸長（眼の長さ）、網膜剥離の範囲、手術に使用した薬剤、タンポナーデ物質、手術時間、術後視力、白内障手術併用の有無、水晶体の状態、術後合併症の内容

#### 《試料・情報の管理について責任を有する者》

滋賀医科大学 眼科学講座 柿木雅志

#### （４）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 眼科学講座 柿木雅志

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2276

メールアドレス：kakinoki@belle.shiga-med.ac.jp